

ふるさと再発見

明治維新を迎えた島原城

1869年(明治2)、島原藩主松平忠和は、これまで治めてきた土地と人民を朝廷に返上し(版籍奉還)、島原藩知事に任命されます。

「明治維新」の名のごとく、この時期さまざまな改革が推し進められていく中で、藩主の公私ははっきりと区別されていきます。

政務はこれまでどおり三ノ丸御殿で行われますが、従来三ノ丸御殿は藩主の住居を兼ねていました。ところがこの時、御殿の後庭の一角に館舎が建てられ、12月、忠和はそこへ移り住みます。その館舎は「甲第」と名付けられ、政庁とは明確な境界によって分けられました。

1871年(明治4)7月、忠和は知事の職を解かれ、藩が廃されて県が置かれます(廃藩置県)。職を解かれた忠和とその家族は、翌月以降東京に移り住みます。

廃藩置県によって、旧島原藩領にはそのまま島原県が置かれ

ましたが、11月には島原半島の領域が長崎県に編入されます。

そして、三ノ丸御殿は島原県庁舎としても用いられたようですが、島原県がなくなった後は利用されないうまま、1873年(明治6)に85円で落札されました。

そのことを記した資料には、島原県庁舎の様子が、「年数を経た古家のため腐れ朽ち、それでいて大きな建物のため、崩そうにも手数が掛り容易でない」と記されています。

この状態は、そのほかの天守や櫓も同様で、廃藩置県の年に大門が解体され、

1876年(明治9)ころまでに、ほとんどの城の建物が姿を消すこととなります。



建物のない島原城本丸

(松平文庫学芸員 吉田信也)

クローズアップ

Close Up!



杉谷コスモス会

7月の早朝、雑草が生い茂げる中尾川の河川敷に作業着姿の人たちが集まり、トラクターや草刈り機で一斉に除草作業を始めました。

今回、紹介するのは、杉谷地区でさまざまなまちづくりの活動をしている「杉谷コスモス会」の皆さんです。

「杉谷コスモス会」は、平成8年から活動が始まりました。現在、杉谷地区の農業後継者を中心とした約20人が、年2回(7月・12月)、中尾川の除草を行うほか、その散策路などにコスモスやひまわり、アジサイの植栽を行っています。

会長の堀川邦夫さんに話を伺うと、「会では、中尾川の除草・植栽だけでなく、正月の鬼火や健康ウォーキングなど、地元の人たちが一緒にできるイベントにも携わっています。こうした活動を行うことで地域の一体感ができてきます。これからも活動を続け、地元の人たちが誇れるまちにしていきたいです」と笑顔で話してくれました。

杉谷地区のまちづくりに興味のある人は、杉谷公民館(☎⑥2231)または、会長の堀川さん(☎⑥0389)に問い合わせてください。



除草前



除草後